

UTSUNOMIYA **Blitzen** TIMES

Race Report

- 09.03 JCL 第7戦 キナン古座川ロードレース
- 09.09 第36回 ツール・ド・北海道ステージ1
- 09.10 第36回 ツール・ド・北海道ステージ2
- 09.11 第36回 ツール・ド・北海道ステージ3
- 09.25 高知県宿毛市ロードレース

Special Present

JAPANCUP POP UP STORE
THE RED ZONE

October.2022

Vol.77

難易度の高いコースも 経験値を見せた増田が2位



2022.09.08 札幌市農漁除害ステーション前・共和町生涯学習センター前

第36回 ツール・ド・北海道2022

1st STAGE 増田が再三のアタックを仕掛け ステージ2位の上々の滑り出し



16年は初田成幸が個人総合優勝した相性いい大会だ。増田もリッセンは宮崎泰史が病欠のため、増田、阿部嘉之、堀孝明、小野寺玲の4人の出場となった。第1ステージは途中3つの山岳ポイント、2つのポイントポイントが設定されたハードなコースだ。

快晴の中スタートした増田は序盤から有力選手が動き、24.5km地点の最初の山岳峠は阿部の1位通過し、40.6km地点の最初のポイントでは増田が3位通過し、ポイントスタートは谷崎浩之、小野寺、リッセンも積極的に展開。勝負が分かれ目は54.1km地点の山岳ポイントである毛峠の上り。直前のポイントで増田が緩に伸び、他の選手もまっすぐにしてしまっている。増田がアタック。増田は分裂し、増田、小野寺を含む7名の先頭集団が形成され、2回のも無峠は増田が5位で通過。そして2回を終えても小野寺は17名に留まり、2回目のポイントスタートは谷崎浩之、小野寺、リッセンが獲得。リッセン、下・上道は上りが多岐手意識があるというが、オチから力をかけた地脚を、今回も増田が合わせる走りであった。

増田は後述のタイム差を見ながら回しき、残り1kmを切った後はスプリント力で勝負。増田が先行、そのままフィニッシュとなり、増田は2位でゴール。総合順位も2位となり、トップの滑り出しであった。

第1ステージのリザルト

1位	今村龍介 (チームブリヂストンサイクリング)	4:01:08
2位	増田成幸 (宇都宮ブリッツェン)	+0:00
3位	山本犬喜 (キナランレーシングチーム)	+0:00
11位	小野寺玲	+5:53
29位	阿部嘉之	+8:11
41位	堀孝明	+16:53

【増田成幸のレース後コメント】
上りが多いステージだった。2つ目、3つ目の山岳峠は自分から仕掛けた。3つ目の上りはキナランチームと併走し、そのまま後方から強力なメンバーが追いついてきました。最後、山本選手と今村選手の3名で抜け出したが、自分自身はついていけなかった。そこをなんとかし、今村選手のスプリントにはかなわなかった。

3rd STAGE 峠でブリッツェン列車炸裂 小野寺が意地の集団頭でゴール

2022.09.11 俱知安町二セコグリン・ヒラフスキ場前



増田は先頭集団から逃げかき分け、宇都宮ブリッツェンが集団待機。リーダーの門田選手、総合2位のトマル選手(キナラン)、同4位の松田選手(那須ヶ原)、リッセンも集団におり、残り80km地点で残り10名と集団の差は3分。500mは3%の勾配が、3日間走脚の末にたどり着く。このあたりは上り坂が、結核でも響く。

前日総合7位となつた増田成幸が1位の門田祐輔選手(ヒラフスキ)に、NIPPONダイナモンのトマル選手との差は4分4秒。正直、下り坂転びを恐るため、トマル選手も集団におり、残り80km地点で残り10名と集団の差は3分。先頭には増田を逃げて狙う総合4位今村龍介選手(ブリヂストンサイクリング)、同8位のガルシア・マルコ選手(キナランレーシング)。オチの意識が結構ある。

増田は先頭集団から逃げかき分け、宇都宮ブリッツェンが集団待機。リーダーの門田選手、総合2位のトマル選手(キナラン)、同4位の松田選手(那須ヶ原)、リッセンも集団におり、残り80km地点で残り10名と集団の差は3分。500mは3%の勾配が、3日間走脚の末にたどり着く。このあたりは上り坂が、結核でも響く。

増田は先頭集団から逃げかき分け、宇都宮ブリッツェンが集団待機。リーダーの門田選手、総合2位のトマル選手(キナラン)、同4位の松田選手(那須ヶ原)、リッセンも集団におり、残り80km地点で残り10名と集団の差は3分。500mは3%の勾配が、3日間走脚の末にたどり着く。このあたりは上り坂が、結核でも響く。

JCL初開催。欧州のそれを 思わせる雄大なコース設定

JCL第7戦和歌山県東牟婁郡古座川町を舞台にした古座川ロードレース。自転車ロードレースファンにとて和歌山と言えは「ツール・ド・熊野」が有名だが、古座川ロードレースは初開催だ。熊野同様、自然豊かなコースが用意され、スタート&フィニッシュ地を指定した天然記念物「古座川の峡谷」が見下ろしている。

まるでイタリアやフランスの山岳地帯のような、雄大な地形の素晴らしいコースが設定されたが、1周41.6km周回コースの登坂距離は6km、獲得標高は314mに及び、平均勾配も4.15%にも達する。登りが長いぶん、2カ所は下りも続き、選手にとってハードな戦いが予想された。宇都宮ブリッツェンは1レース当日に宮崎泰史が体調不良で出場辞退となり、5名体制でレースに臨んだ。

序盤は阿部嘉之が向川尚樹選手(VCC福岡)と逃げを決め、さびに独走するシーンも見られたが、激しい登りが始まる前にメイ・集団に吸収された。山岳ポイントの長い登坂に入ると、チーム右京相模原のネイサン・アール選手、ベンジャミン・ダイポール選手が力を見る。そこに地元和歌山のキナランレーシングから山本犬喜選手が食らいついてきた。山岳ポイント通過後の下りで宇崎隆貴選手(チーム右京相模原)が追いつき、チーム完勢は3名、キナラン1名の形でロードレースを回す。

先頭に食らいつく増田が 粘りのロングスパート

1周目はアール選手がトップ通過、以下ダイポール選手、宇崎選手、山本選手と続

く。後続第1集団は16名が1分10秒遅れで追走。その中にチームからは増田が入る。タフなコースだけに選手たちは複数の小集団に分かれており、小野寺玲は後続第2集団で前をうかがっていた。

2周目の山岳ポイント前マルコス・ガルシア選手(キナランレーシング)、石橋選手(チーム右京相模原)、そして増田が抜け出して先頭グループを追い始めた。山岳ポイント通過後の下りで3名は先頭と合流し、7名でベタルを回し続けた。増田は「前夜の雨もあり、甚むした下りがより滑りやすくなってしまったため、1周目はかなりゆつくり走った。先頭が速く、下つたら1分半近く開いていた。これはまずいかなと思っただけ、マトリックスやウイクトワール広島の選手たちと協力し、次の登りで追い上げることができた。7名になつても協力は取れていた」と振り返る。

3度目の山岳ポイントの登りでガルシア選手、アール選手が抜け出し、アール選手が山岳ポイントで1分通過、17秒遅れで増田が3位通過。その下りで仕掛けて単騎で逃げたのはガルシア選手だ。20秒ほどリードを広げたが、平坦に入るとアール選手、山本選手、増田が追いつく。

地元キナラン勢は2名と有利だが、フィニッシュが近づくにつれて牽制が始まる。残り1kmほどまで様子をつかっていた選手たちから、早めに勝負に出るのは増田だ。残り300mでロングスパートをかけて一気に加速する。しかし、増田の後ろについたアール選手がフィニッシュライン前で底力を見せ、優勝をもぎ取った。増田は惜しくも2位。それでも増田は、総合1位のイエロージャージをキープ。小野寺も6位に入り総合4位で、スプリント賞総合7位であるブルージャージも守った。

2nd STAGE チームの窮地に皆でバックアップ 増田の総合10位以内を死守

2022.09.10 俱知安町二セコグリン・ヒラフスキ場前



第2レースの見どころは、40.6km地点にある新見峠標高741mだ。そこに入前にできなかった者の逃げに、阿部と堀の2名を逃らすことに成功。一時は増田と4分の差が開く。増田を宣言、総合上位勢は集団待機の形で進み、レースが動き始めた。残り70km、一列縦隊で非常態にアタックになった集団から、15分ほど増田を仕掛ける。実はこの動きが、第2ステージの明暗を分けることとなる。

集団内ではのどきちとしたトマルがあり、総合上位の選手からスプリント本線めようアヒルがあった。増田もそれと同調してアヒルを止めたが、それに気がかかっていた前方アタックが掛かってしまう。そのときは勝負を仕掛けないのが最良な選択で、レースの不文律、それに則して集団に留まった選手、勝負が掛かっているかには前を追う連がいて、自分から動くか瞬時に勝負を迫られた増田はまさに力オチ状態であった。フィニッシュの従つた「規則ではないのが難しいところで、増田が止まった宇都宮ブリッツェンとしては非常に厳しい状況に、まだまだ多くの総合上位選手も集団に留まる形となつた。

第2ステージのリザルト

1位	谷崎成 (那須ヶ原)	4:35:29
2位	門田祐輔 (エデュケーション・NIPPONダイナモントーム)	+0:00
3位	トマル(キナランレーシングチーム)	+0:05
22位	増田成幸	+4:57
25位	小野寺玲	+5:41
44位	阿部嘉之	+17:19
46位	堀孝明	+20:00

【監督・清水裕輔のレース後のコメント】
今日はフィニッシュのひらぶで勝負をするつもりだった。アタックの多いコースだったので、レースコントロールをうまくアタックが引き起したときに駆けこも考えていた。最初の7名の逃げに阿部、堀を入れて、前持ちでもできるし、とてもいい形でレースを進められていたと思う。最後は小野寺、阿部、堀が必要に増田を前に上げてくれ、UCIポイントのつく7位に増田を位置づけたのは、チームとしては最後まで頑張った結果だ。

リザルト

1位	ネイサンアール (チーム右京相模原)	3:11:45	6位	小野寺玲 (宇都宮ブリッツェン)	+2:21
2位	増田成幸 (宇都宮ブリッツェン)	+0:00	DNF	阿部嘉之	
3位	山本犬喜 (キナランレーシング)	+0:00	DNF	堀孝明	
			DNF	及川一紀	
			DNF	宮崎泰史	



【ロードレース後の増田成幸のコメント】
3周目の登りはマルコ選手とネイサン選手が二人で陣から攻めていたが、自分も出せるペースギリギリで登った。頂上は前の二人が見えていたのでリスクはあったが下り選手が強かった。今回は宮崎が出場できなかったが、次はフルメンバーで戦いたい。



初物尽くしの記念すべき大会で 小野寺玲が2位に食い込む



自動車専用道で日本初プロレース

JCL第8戦の舞台は高知県南西部にある宿毛市（すくもし）。四国初となる公式戦は、同時に自転車のプロロードレースとして日本初となる、自転車専用道路を全面通行止めにした公式戦だ。

レースはパレード走行を終えるとアタック合戦が始まり、落ち着いたのは4周目後半。山本大喜選手（キナンレーシング）、ベンジャミン・ダイポール選手（チーム右京相模原）、横塚浩平選手、中島雅人選手（ともにVC福岡）、西尾憲人選手（那須フラゼン）、そして阿部高之という6名の逃げが決まる。やがてそれは5名となり終盤へ。ダイポール選手が残り2周手前でアタックして揺さぶりをかけると、前半から果敢に攻めて消耗していた阿部が一瞬遅れるも、なんとか食らいつく。

皆で小野寺を牽引しゴール勝負へ

後続メイン集団は宇都宮ブリッツェンのメンバーが積極的に前に出てコントロール。最後は逃げを捕まえて、スプリントターの小野寺玲で勝負したいところだ。自動車専用道路の上りでダイポール選手が再び仕掛けると、折り返しを単独通過。下りを利用することで山本選手ら4名を引き離し、10秒のアドバンテージを得る。メイン集団との差は1分40秒ほど。そして残り1周を目の前にして、ダイポール選手に後続4名が追いついた。お互いの様子をつかっていた5名だが、自動車専用道路手前で山本選手が一人抜け出しに成功。引き離しにかかる。

自動車専用道路の上りに差し掛かるころには、4名とメイン集団の差が詰まる。



先頭を走る山本選手と4名のタイム差は10秒、その25秒後ろにメイン集団だ。間もなく4名は吸収されると、メイン集団はリーダージャージを着る増田が牽引。山本選手を捕らえることに成功した。

一つになった集団が公道に降りると、次から次へとアタックが始まる。そこに加わったのが小野寺だ。残り1kmを切つて牽制状態から新城雄大選手（キナンレーシング）、小右祐馬選手（チーム右京相模原）ら6名によるスプリント勝負へともつれ込み、スパークルおおいの孫崎大樹選手が巧みなコース取りで優勝を手中に収めた。小野寺は僅差の2位。

総合一位のイエロージャージは増田がキープ。小野寺も6位に入り、ブルージャージを堅守している。チームランキングも引き続き1位だ。また、3周目終了時のスプリント賞「はた結び賞」は阿部が獲得。「10数年選手をやっているが、自動車専用道路を走るの初めて。いい経験をさせていたただいてありがとうございます」と関係者に感謝を伝えた。


リザルト

1位	孫崎大樹 (Sparkle Oita Racing Team)	2:51:19
2位	小野寺玲 (宇都宮ブリッツェン)	+0:00
3位	新城雄大 (KINAN Racing Team)	+0:01
18位	増田成幸	+1:05
21位	阿部高之	+1:32
29位	堀孝明	+10:22
30位	及川一織	+10:22
DNF	小坂光	

【レース後の小野寺玲のコメント】

増田さんにずっと引っ張ってもらい、最後まで諦めずに皆が集団をまとめて、勝負を託された。VC福岡の濃邊諒馬選手が先行し、それを追う形でスプリントに入って形は悪くなかったが、決められる脚が残ってなかった。各チームが単騎だったので臨機応変に戦うしかなかった。最後のコーナーに入る前に先頭を走ってしまい、そこが厳しいところだった。




ザ・レッドゾーン & ジャパンカップミュージアムがオープン!
 ジャパンカップの開催期間中にオープンする、宇都宮ブリッツェンのポップアップストア「ザ・レッドゾーン」が3年振りに帰ってきました。今年はチームプレゼンテーション、クリテリウム表彰式が行われるオリオンスタジアム向い側にジャパンカップミュージアムとコラボ出店。広い店内では近年のジャパンカップサイクルロードレースに関するフォトギャラリー、選手が実際に使用していたロードバイクやウェアを展示。この期間この場所ではか手に入らない宇都宮ブリッツェンのファングッズやジャパンカップ公式オリジナルグッズも購入できます。



UTSUNOMIYA BLITZEN POP UP STORE THE RED ZONE

Race & Event Schedule	
10/1 (sat)	JCL おおいたこの道クリテリウム
10/2 (sun)	JCL おおいたアーバンクラシック
10/14 (fri)	JAPANCUP チームプレゼンテーション
10/15 (sat)	JAPANCUP クリテリウム
10/16 (sun)	JAPANCUP サイクルロードレース
10/22 (sat)	JCL しおやクリテリウム
10/23 (sun)	JCL 那須塩原クリテリウム
10/29 (sat)	JCL 山口ながとクリテリウム
10/30 (sun)	JCL 秋吉台カルストロードレース
11/6 (sun)	さいたまクリテリウム
11/13 (sun)	JCL TOUR DE OKINAWA2022

私たちは宇都宮ブリッツェンを応援しています。

Thank you for your support